

活用実績

【東南アジア地域研究研究所】担当教員：岡本正明 教授

国際シンポジウム「リアウ州における泥炭林と河川域の生態系の保全」(2022年2月12日)

受講生数：70名(リアウ大学教員、大学院生、自治体関係者)

● オンライン・シンポジウムでの活用

本研究所が始めた所員の行っている研究紹介の動画(日本語・英語)を、より多く東南アジア地域の人々に見てもらうことで現地社会への還元を目指して、インドネシア語、タイ語、フィリピン語、ベトナム語の字幕をつけた。今回のシンポジウムでは、中川助教の研究活動の紹介をインドネシア語字幕をつけておこなった。

● 活用にあたっての工夫・課題及び今後の展望など

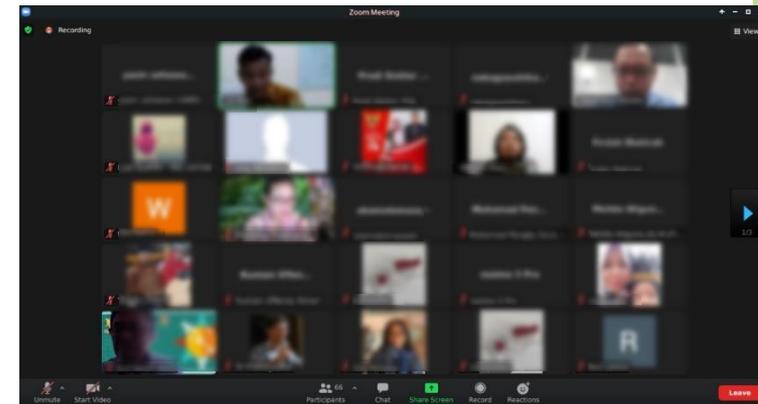
インドネシアではインターネットへのアクセスが切れたり、速度が遅くなる可能性があるため、Zoomで動画がうまくいかなかった場合に備えて、Youtubeのリンクも準備した。実際には、Zoomの動画だけで対応できたが、やはり、スムーズな動画上映とはならなかった。現地のインターネット状況次第なところもあり対策が難しかった。

● 学生等からの声・反響、自身や学生による映像制作等の経験談等

現地社会への還元を考えれば、英語ができる研究者だけでなく、多様なステークホルダーにも見てもらえる動画の多言語化は有効だと思った。動画を使ったシンポジウム自体は、かなりの質疑応答が行われた。日本時間で11時から予定の2時半を過ぎて4時まで続いた。参加者は開始時点の70名から減ったとはいえ、58名が参加し続けた。



インドネシア語字幕付き動画の上映シーン



シンポジウムの1シーン